

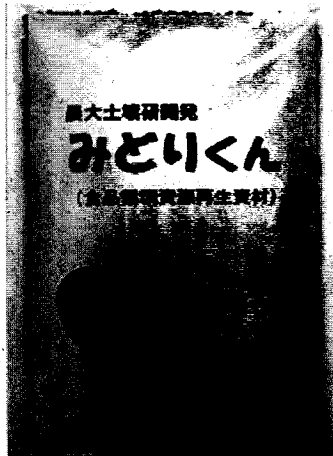
東京農業大学 みどりくんプロジェクト グッドデザイン賞に

東京農業大学(高野克己学長・東京都世田谷区桜丘1-1-1)が開発した都市完結型生ごみリサイクルシステム「みどりくんプロジェクト」が今年度のグッドデザイン賞を受賞した。

「みどりくん」とは生ごみを原料とする有機質肥料で、世田谷区内の学校給食の生ごみ、あるいはキャンノン電子(株)の生ごみ乾燥機で乾燥した生ごみを東京農業大学に集め、わずか数時間で「みどりくん」を製造する。これを肥料として周辺の農家が野菜を生産し、庭先販売や学校給食の食材に使う。

グッドデザイン選定に当たったのは、①東京農業大学とキャンノン電子による、都会でもできる迅速で悪臭の出ない生ごみ堆肥化技術の開発②大学・企業・小中学校・J・A・地域住民など地域が一体となった都市完結型生ごみリサイクル活動の実践③小中学校での環境・食育教育の推進・都市農地の存続で、デザインナーは、東京農業大学と、じゅんかんチャレンジ桜丘推進協議会、キャンノン電子(株)合同プロジェクトチーム。

開発の背景としては、東京都内には約7000畧の農地があるが、相続などの影響で減少の一途を辿っており、そのため、都会の小中学生らが「農に触れる機会も減っている」とあり、また、キャンノン電子・環境機器事業部では従来から生ごみ処理機を市販し、多くの事業所や集合住宅などに配備されているが、その乾燥処理物の再利用方法が大きな課題であった。そこで東京農業大学が開発した生ごみ肥料製造技



有機質肥料「みどりくん」

術とのドッキングを図ることになった。

東京農業大学の生ごみ肥料化システムでは、乾燥した生ごみから油を絞り、その油かすを成型化して有機質肥料「みどりくん」を製造する。悪臭が出ないため都会でもできる。ただし、肥料として流通させるには肥料取締法に定められた肥料公定規格のいずれかに該当する必要がある。しかし、「みどりくん」は新規に開発した肥料であったため該当規格がなかった。そこで、2010年農林水産大臣に新規公定規格の新設を申請した結果、2018年10月に新規公定規格「食品残さ加工肥料」が設定された。もう一つの課題が都会での生ごみの収集・運搬であったが、キャンノン電子の生ごみ処理機で乾燥した生ごみを原料とすることで収集・運搬は容易。

東京農業大学とキャンノン電子の両技術を約90畧の畑が残る東京都世田谷区内で合体。生ごみを「みどりくん」に変え、畑で野菜を生産する。これらをすべて都会の中で行い、環境・食育教育を進め、食と農をつなぐ都市完結型生ごみリサイクルを構築する。